

平成 27 年度政策討論会第二分科会要点記録

- ・日時 平成 27 年 12 月 21 日
- ・場所 第 1 委員会室
- ・会議時間 10 : 00 ~ 10 : 31
- ・出席者 座長 岡林 憲二
副座長 金子 拓矢
稲田 悦治
井上 博
今口 千代子
岩崎 雅秋
烏野 隆生
米田 貴志 (五十音順)

・今回の狙い 本分科会のテーマは、「岸和田の観光におけるインバウンド観光客の取り込みについて」である。今回は、今までの纏めをある程度行いたい。

発言要旨 (順序不同)

- ① 訪日外国人観光客が岸和田に来た時の居心地を考えた場合の言葉の問題が重要になる。特に電車やバスに乗車する時に安心して乗れるかどうか不安になっているというニュースをよく見るので、岸和田でもそういった事を考える必要がある。
外国語を勉強している日本人学生の力を借りることも考えてはどうか。
外国語を学ぶ学生と訪日外国人観光客を組み合わせで一石二鳥な事を考えてはどうか。
- ② 原点にもどるとインバウンド観光客による経済効果、すなわち稼ぐことをどうするかですよね。その為には本市に宿泊してもらうのが一番であると考えます。宿泊料もそうですし、滞在時間を延ばすことで経済効果も大きくなります。宿泊施設を確保する為に、例えば空き家を利用した民泊施設を後押しする様な規制緩和策が必要と考えます。話は変わりますが、外国人専用のカプセルホテルもある様です。増加してくれば、ゆくゆくは検討してもと思います。あとは本気で本市として観光に力を入れる気があるのかの問題ではないかと思います。
- ③ だんじり、お城、お寺など観光をメインにした取り組みが必要であります。観光を中心とした城下町の整備、イベント開催、外国人受け入れ体制による通訳、人材育成それに伴う観光サポート、文化交流と異文化の理解、外国人向けの穴場スポットのリサーチ、マーケティングなど、観光課以外に、インバウンド外国人観光に対しての組織をつくるのが、インバウンドに対するまとめであります。そしてインバウンド最大のイベント、ラグビーワールドカップ、東京オリンピックに向けての外国誘致の取り組みこそインバ

ウンドの成功と言えると思います。

- ④ 本市における観光行政の基本は恒久的に観光客・旅行者として本市に滞在してくれるであろう方々をメインにおくべきと考えます。

例えばスポーツツーリズムにおける各種競技団体の大会を誘致することにより、その選手等の宿泊などを提供することです。

本市だけでは全国大会規模を誘致するほどの施設はありませんので、近隣市と共同開催を前提とすれば現行の施設に少し手を入れるだけでも可能ではないかと推測します。

また観光に限れば、岬町の海岸美から、犬鳴山や水間寺それに本市の城、久米田池、堺市の仁徳陵を中心とした百舌鳥古墳群までの観光ルートを確立することにより、観光客を誘致すれば見どころのある観光ルートとして確立できると思います。

いずれにしても周辺自治体との提携により観光行政を行うべきと考えます。

- ⑤ 岸和田市内で、インバウンドがどれほど出来るだろうか。まず、市民が岸和田の魅力を発見し、誇りを持つところから、始まると思う。お城、久米田池、そして、だんじり祭り等。他市の経験などを聞くと、なんといっても、発信力がどれほどあるかが鍵を握る。市の担当課、観光振興協会、旅行者等からの発信が、どれくらい出来るか。市内の観光に関わる方々が、精力的に発信していただけるよう、行政は頑張らなければいけない。外国の方々は、思いもよらない岸和田を発見して、足を運んでいただけるかもしれない。宿泊施設など受け入れ体制など課題もあるが、今は、スタートラインに立ったつもりで、今ある観光資源を発信していくことだと思う。
- ⑥ これまでの発言内容にもありましたが、本テーマへの取り組みには関係団体等から構成される組織の設置が必要であると思います。本市の観光計画でも、本テーマ、項目程度しか記載されておらず、積極的とは思えない。よって、議会において本テーマについて政策討論会で議論を重ねていることも、認識して頂き、本市の観光行政推進の実戦部隊とも言える商工会議所及び観光振興協会の関係者を招聘し、意見交換が必要と考える。2団体に対し、政策討論会での取り組みをご説明し、2団体からは、観光振興への取り組み全般と、本テーマについての現状及び今後の考え方等をご説明頂き、意見交換をし情報等の共有化を図ることを目的とし、次回開催の一月十八日に招聘してはと考えています。

各議員のご賛同を頂き、第二分科会の決定として、代表者会議の承認を頂ければと考えています。

- ⑦ インバウンド観光を推し進めるには、それに特化した部署を設置する事が必要と考えている。なので関係する諸団体のご意見を伺いたいし、意見交換もできればとも思っている。これまで展開されてきた観光振興計画の中核の部分は「産業」としての捉え方が二の次になっていた部分がある。中心は「まちづくりにおける観光」となっていたのが、これまでの観光振興計画である。次の計画には、観光は産業だと言う視点を盛り込まな

ければならないと思っている。なので関係する諸団体との意見交換は必要と思っているので、是非関係する諸団体にお越し頂きたい。

- ⑧ 「纏め」ということになれば、やはり古民家活用等での民泊と今後のトレンドとされるコト消費、体験型観光に力を入れるのが良いと考える。また、他の議員から出たものであるが、インバウンド観光に的を絞った専門的部局を設置することはPR方法等のノウハウを蓄積するためにも必要であろうかと思う。ここに民間の人材を起用するのも効果的かもしれない。同じく他の議員から無線LAN環境の整備の必要性も出たが、特に民泊活用の場合は基本的に一週間程度以上の滞在が条件になるので母国とのローコストでの通信手段の確保として必須であろうかと思う。

以上